

第9回企画運営委員会（10.6.8）のまとめ

平成22年度の「福祉の学び舎事業」がスタートしました。昨年からの継続ということで、第9回となる企画運営委員会は6月8日に開催されました。

会議では、配布された資料をもとに、今年度事業の企画内容やスケジュール案、具体的なアイデアについて説明され、その後グループごとに意見交換を行いました。結果は以下のとおりです（配付された資料とあわせてご覧ください）。

グループごとの話し合い内容

(阿宮グループ)

■全体について

- おおすじ、これでOK。
- 達成目標の具体的なイメージをちゃんと共有し、それに向かって動いた方がいいんじゃないか？
- 達成目標は、「連携事業のきっかけをつくる」くらいの方がいいのではないか。

■交流会について

- 「地域財循環ワークショップ」は、地域のニーズ（こういうことしてほしい）が見えてくることは非常に有り難いので、いいと思う。
- 実際に地域通貨をつくって運用するという目標にするのは、ちょっと難しそう。でも、その場限りでのやりとりなら面白そう。
- 地域福祉のパネルディスカッションは、好評だったし、またやりたい。
- 会場は、「来てください」でなく、人があつまるといような場で行うのも検討したい。
- グループ（各分野）ごとに分かれて、課題や問題について話し合う場もほしい（茶話会でもいいけど）。
- 福祉は生活そのもの。みんなに関係があるので、様々な分野や立場の人に声をかけて集まってもらいたい。

■現場訪問ツアーについて

- 去年、木津のお茶の間への参加人数は多かった。5人くらいがちょうどいい。

○ちょこっといっているのではなく、一日のプログラムを通して参加してもらった方が、よりわかるのではないか。

■ミニ茶話会について

- 配食サービス、買い物支援、ゴミ捨て支援など、差し迫っているこれからの課題もあるので、社協主体の江南区内各地のいきいきサロンの方々などに声をかけ、小グループで開催してはどうか。
- 各分野で抱えている問題の解決の方向性をさぐるような内容がいいのではないか。
- 場合によっては、ゲストを招いてもいい。

■企画運営委員会について（昨年より回数を減らしたことについて、どう思うか）

- この委員会の位置づけ次第。企画を話し合っつくっていくなら4回は少ないし、たたき台があって、それを修正していくような場であれば4回程度でもいいのではないか。

（斎藤グループ）

■福祉のネットワークづくり交流会・現場訪問ツアーについて

- 福祉関連の活動をしている人たちから悩みとしてよく聞くのが「場所がない」ということ。空いている（あるいは利用頻度が低い）公共施設を提示してもらい、そこで活動する団体等を募集するということができないか？
- 高齢者福祉施設は、世間一般では暗いイメージがもたれている。この誤った印象を改めるために、地域住民の人たちに実際に足を運んでもらう機会を設けることが必要。高齢者福祉施設で、地域住民の健康診断を行うといったことができないか？
- 理想としては、各地区に子育てサロンのような場があるとよいのだが、なかなか色々な問題があって実現が難しい。であれば、各地区で開催されている「いきいきサロン」との共同開催の道を探ってはどうか？

⇒地域財循環ワークショップを開催し、そこで地域が共有できる財（場所、機材、情報、機会など）を官民双方で出し合い、実際にそこが使えるかどうか・協働が可能かどうかを見に行くツアーを開催してみてもどうか？

■ミニ茶話会について

- 介護予防をテーマに最新の動きや情報を伝える勉強会があるとよい。
 - いきいきサロンでは定期的に行っている。
 - 包括支援センターには情報が入ってこない。

- 配食サービスは、民間事業者では長続きしないことが多い。それに比べ、七味の会はとても評判が良い。曾野木での取り組みを紹介する勉強会をぜひ開催してほしい！
- 団塊世代の男性のパワーを引き出し活用していくための学習会を開けないか？

話し合いで出された意見をもとに、事務局のほうで今年度の実施内容の詳細を検討し、次回の企画運営委員会で報告、検討いたします。どうぞよろしくお願いいたします。